

平成24年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 有功東小学校
校長氏名	宮本 茂
作成日	平成 25年 3月 1日

1 教育目標

自らの世界を切り拓こうとする主体的・創造的な子どもを育成する。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域の人材をより一層活用し、地域や保護者に学校・学級を開くとともに、積極的に学習を公開していく。 ○信頼される学校を学校運営方針に保護者との信頼関係をさらに深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな体験活動を充実し、活動を通して感動や感性を育てる。 ○「いのちの日」を活用し、いじめをなくし命の大切さや友達を大切にすることなど心の教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○共に学び合い、問題解決し、学ぶ楽しさや喜びを実感できる授業の創造により、確かな学力の向上を目指す。 ○家庭と連携し、より確かな家庭での学習習慣を確立する。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究等を通し、地域人材・専門家等の講師を招聘し、生活科や総合的な学習を中心に取り組むことができた。 ・附属小学校や教科研究会とも連携しながら教材研究、授業研究に取り組むとともに、研究発表会を通して、本校の研究を発信することができた。 ・地域だより「六十谷の子」を毎月地域に発行した。また、日々の学習にも保護者に参画してもらったなどした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科や総合的な学習を中心に、多様な体験活動を通して「学校が好き」「自分が好き、仲間が好き」と感じられる子どもを育てようとしてきた。 ・各学級のマイカリキュラムによる、個性豊かで特色のある学習の展開と学級経営を通して、子どもの居場所、活躍できる場をつくろうとしてきた。 ・地域の人材や素材を活用し、子どもや地域に根ざした学習の実践を通して、有功地域のよさに気づき、地域を大切にしようとする心情を育てようとしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科・総合的な学習で育てたい3つの力について、授業実践と協議を重ねながら充実を図ってきた。 ・どの学習でも、体験的な活動、話し合い活動、かく活動を大切に、それぞれを学習のなかで効果的に組み込み、子どもたちの学力の向上を図ってきた。 ・校内研修の充実と授業研究を通して、教師力を育成し、また、学習規律の確立につとめた。
（評価結果）【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケートで、「有功東小学校に子どもを通わせてよかった」と回答した保護者が、全体の91%にのぼり、成果を上げることができた。 ・アンケート結果から、学校の取組状況をさらに発信し、保護者の理解を得るよう努める必要も感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のアンケート結果では、「学校が楽しい」91%、「友達となかよくする」94%あり、子どもにとって学校が心の安らぐ場になっていると判断できる。 ・ゲストの方から、子どもが大変意欲的であるとの評価をいただくことが多かった。人との出会わせ方や出会う場などをより一層工夫することにより、人との出会いを大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の研究発表会等で、子どもの姿について評価をいただくとともに、より質の高い取組をめざした意見もいただいた。 ・児童のアンケートで勉強がわかると答えた児童が85%あった。より高い数値をめざしたい。 ・学力調査の結果では、全国平均とほぼ同じだが、国語Bについて課題が見られた。また、無回答率がやや増えている。粘り強く取り組む指導がさらに必要だと感じた。
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くのゲストの招聘と地域人材の開発。また、地域人材リストの作成。 ・学校から発行する各種の便りやホームページの充実を通して、地域や保護者に取組を知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉づかいや何気ない振る舞いで周りの人を傷つけてしまうこと、温かさを実感できない児童の増加等に対する指導・支援の充実を進める。 ・飼育生物との触れ合いによる豊かな心の育成が広がるような工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や学力に課題のある子どもへの支援の充実をめざした。家庭との連携を密にしながら、生活指導や学習指導の効果を高めていく。 ・家庭学習の充実を進めていく。

3 その他の課題

・地域に開かれた特色ある学校をめざして、生活科・総合学習の研究と豊かな環境・子どもの居場所づくりに取り組んできた。児童数の減少や若い教職員の増加等に伴い、本校の教育活動も新しい時代に移行してきている。教員の授業力・教師力を磨き、チームとしての連携を強化することで、学校・学級経営にあたっていかなければならない。